

## 西水 美恵子

にしみず・みえこ=75年ジョンス・ホプキンス大学院卒、プリンストン大経済学助教授を経て、世銀副総裁。退任後、シンクタンク・ソフィアバンクのパートナーなどを務める。



雷龍の国ブ

あるオーラを感じた。人のカリス  
マはともかく、国にそれを感じる  
のは不思議とびっくりした。それ  
から丁度12年めにあたる昨年の  
春、山形県庄内空港に初めて降り  
立った時、同じオーラを意識して  
驚いた。  
迎えてくれた土地の人に「庄内  
人の魂がこもる空港だ」と教わっ  
た。日本海と険しい山々に囲まれ  
る庄内平野は、長年「陸の孤島」  
とよこえ呼ばれ、空港は、そこに住  
む人々の夢だった。その夢を叶え  
ようと酒田市や鶴岡市など土地の  
商工会が動き、なんと小学生まで  
が10円玉を寄附して、開設に至っ

## 時評

## ウェーブ

2010. 1. 13

# 庄内人の魂

たそがだ。

客員教授として招待された東北  
公益文科大学も、庄内人が自ら叶  
えた夢だったことを思い出した。  
庄内市町村の情熱が山形県を動か  
し、10年前に創立された公設民営  
大学だ。その設立宣言を読み返し  
てみて、また驚いた。ブータンが  
実践する「国民総幸福量」と全く  
同じ公共哲学がそこにあった。

庄内地方は、遠い北前船の時代  
には東日本・日本海側で最も栄え  
た港町を擁した。日本一、二を誇  
る庄内米などを扱って全国を先導  
した豪商・大地主も多く輩出し  
た。さらに最上川や鳥海・月山に  
は芭蕉はじめ、多くの文人墨客が  
足跡を刻んだ。また庄内藩とそれ  
に続く城下町の伝統は高度の学術  
・文化を育み、蓄積した。

いじめ、暴力がしばしば跋扈し、  
登校拒否、中退、学級崩壊も日常  
化した。

21世紀は「ヒト・ココロ」本位  
の時代である。△世のため人のた  
め△の非営利の考えや活動、制度  
やシステムが大きな位置と役割を  
占めることになる。そのときこそ、  
子供が子供らしく、人間が人間ら  
しく生きることでできる公益の時  
代である。

そこに至  
って初めて

く、理論や体系の確立に向けて研  
鑽を積む。それとともに、公益大  
学は、公益のかがり火を掲げて庄  
内を拠点に東北から全国、さらに  
世界を俯瞰し、着実に発信し、貢  
献する。  
もちろん、これからの道程は長  
く厳しい。その長く厳しい道程を  
学生諸君、そして地域の人たちと  
ともに切り開き、一步一步踏み固  
めていきたい。

設立宣言の一言一句に庄内人の  
魂がこもる。読む度に心が震え、  
涙さえ落ちる。要約不可能なその  
全文を、ここに紹介したい。

「今、東北の一郭・庄内の地に  
は、創造と進取の気性がみなぎっ  
ている。その息吹のなから新し  
い大学が誕生した。日本で初めて  
公益学に挑戦する東北公益文科大  
学である。

その豊かな歴史と事跡、試行と  
革新、そしてそれらを暖かく見守  
り包みこんできた美しく大らかな  
自然や景観から生まれたのが、公  
益学であり、公益大学である。

20世紀は「モノ・オカネ」本位  
の資本と市場原理の時代であっ  
た。その時代は、子供にとっては  
必ずしも子供らしく楽しく過ごせ  
る時代ではなかった。過度な競争、

資本と市場の原理、そして中央や  
大都市本位の論理が、新しい公益  
原理によって検証され、公益と調  
和のとれる在り方を模索するよう  
になる。

その公益原理に基づく公益学  
は、人間・自然・地域を尊重する  
視点から、自由と平等、平和と安  
全、保護と保全を人類と地球が永  
続的に保障されるのを支援すべ

新政権は「コンクリートから人  
へ」と謳う。庄内人はそのコンク  
リートにさえ魂をこめ、持続的発  
展を追求している。帰国する度、  
醜いコンクリートの塊と化した母  
国を嘆き、「これが発展か、人の  
住む国か」と憤ってきた私に、庄  
内が一筋の希望を与えてくれた。  
ブータンに加えて、この先はば  
らく庄内通いも続きそうだ。庄内  
人が掲げる「公益のかがり火」が  
為す国づくりを夢みつつ……。